

# おいでん祭特別委員会

## 担当副理事長方針

笠原 大祐

いつの時代にも困難はありますが、中津川青年会議所は常に「自分のため」という意識を「誰かのために」へと変革し、未来のまちのために運動を起こすことで、地域により良い影響を与えてきました。私たちはこれからも、地域に住まう人々の想いを知ることで、課題を自分事とし、本質を考え行動に移すことで、市民を巻き込む運動を展開してまいります。そうすることで、まちを思い行動できる市民が増え、共に地域を活性化させることができる団体になれると考えます。

ふるさとの心をつなげることを目指した「おいでん祭」は、今年で39回目を迎えます。これだけ長きにわたり受け継がれて来たのは、先輩諸兄姉が誇りを持って伝統を守りつつ、時代に合わせた方法を模索し、変化させてきたからです。その結果、多くの市民に夏の風物詩として定着し、今なお楽しみにしていただいています。

近年、中津川青年会議所に於いては、メンバーがおいでん祭に関わる機会が減っていることで、主体的に行動ができる人財が少ないのが現状です。しかし、「おいでん祭」の運営を担う私たちは、市民や演者の想いを知り、「誰かのために」という意識を持たなければなりません。その想いがあるからこそ、来場者の笑顔のために、演者の熱意に応えるために、自分事として運営の想定をすることができるのだと考えます。そうすることで、市民、演者、運営の想い一つとなり、活気に満ち溢れたおいでん祭が開催でき、ひいては安心安全なこのふるさとのまつりを、次代へ引き継いでいくことができると考えます。

私はこれまでの活動で多くのメンバーに助けられたからこそ、困難を乗り越え成長することができたと考えており、青年会議所に感謝と尊敬の気持ちを持っています。だからこそ、私は副理事長として、客観的な視点を持ち、相手を尊重し行動することで、メンバーが困難を乗り越えられるよう、成長を後押ししてまいります。

<おいでん祭特別委員会>

今年のおいでん祭は一体感を目指していただきたい。そのために委員会には、様々な人を巻き込むにあたり、何のためにやるのか、どのような効果があるのか、そのために必要な準備は何か。目的意識をしっかりと持ち、相手に誠意をもって取り組んでいただきたい。